



議会たより

No.119
平成30年4月26日

松崎

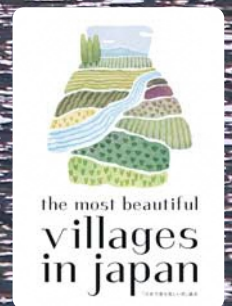


「那賀川沿いの桜(鮎川)」

《主な内容》

第1回定例会 (3月6日～3月13日)

平成30年度当初予算	2
平成29年度補正予算	6
町政を問う 一般質問に3議員	9



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

一般会計

予算総額36億4400万円 第5次総合計画(後期)がスタート



平成30年第1回定例会が、3月6日から13日までの6日間で開催されました。町当局からは条例制定・一部改正が10件、平成29年度補正予算8件、平成30年度当初予算10件、人事案件1件が提出されました。

平成30年度一般会計予算は、前年度対比1億6400万円、4.7%増の総額36億4400万円となりました。増額の主な要因は、同報無線デジタル化整備事業、旧依田邸駐車場整備事業、長八美術館改修事業など投資的経費が約2億3400万円増えたことによるものです。

町民が地域に愛着を持ち、暮らしやすいと思えるまちづくりを積極的に展開するために、「農林水産観光業一体による経済活性化」、「災害に強い町づくり」、「医療・福祉の充実」を町政運営の3つの柱として掲げ、旧依田邸・道の駅については賑わいのある観光交流拠点施設としての整備を進め、同報無線デジタル化による防災力の強化、買い物等支援事業の実施や出産祝い金の増額などにより住民福祉の充実を図ることで「町民満足度の高い町」を目指す内容となっています。

歳入

町税前年度比 1.1%減
総額 6億3350万円

問 固定資産税が前年度比マイナス541万円となっているが、土地価格の推移はどんな状況か。

答 窓口税務課長 地価の下落はまた進んでおり、7月1日現在の地価調査では、平均で3・2%の下落となっている。

不動産鑑定協同組合からは、若者の流出とそれに伴う住宅地の需要の減などが下落要因として報告されている。

問 ふるさと納税の見込みが昨年同額の5000万円となっている。今年の実績から考えてどうかと思うが。

答 企画観光課長 ふるさと応援寄附金は平成28

年度が2700万円、29年度は3000万円弱を見込んでいる。

5000万円としたのは努力目標もあり、各事業者と連携した商品の見直しや新商品の掘り起し、効果的なPR方法などを検討し、ふるさと納税の確保に向けて取り組んでいく。

問 緊急地震・津波対策交付金が約6000万円見込まれている。この交付金には20事業があるとの説明だが、同報無線デジタル化事業へはどれくらい交付されるのか。

答 総務課長 同報無線デジタル化には30年度2億円の事業費を見込んで

いるが、約6000万円の県交付金のうち5000万円弱がこの事業に係る補助となっている。

問 民生費負担金に放課後児童クラブ利用料として55万5千円を計上しているが、1人当たりの利用料と利用予定人数はどれくらいか。

答 健康福祉課長 利用料金は現行、月額1000円、8月のみ2000円であるが、児童館職員を1名増員したこともあり、新年度からは月額3000円、8月は4000円とした。利用者には毎月15人を見込んでいます。

問 松崎幼稚園の授業料について今年度は半額としてきたが、これは30年度も継続するのか。

答 教育委員会事務局長 幼稚園授業料は子育て世代の負担軽減ということで、4000円を2000円に減額しているが、

30年度についても継続して実施していく。

問 じん芥処理手数料の料金改定はあるのか。

答 生活環境課長 じん芥処理手数料は4種類あるゴミ袋の販売によるものだが、来年度は従来どおりで変更はない。

また、持込手数料が増額となっているが理由は、持込手数料の増額は、東伊豆町・河津町で運営している清掃センターが30年度から2カ年、改良工事で使えなくなり、一部のゴミを松崎町で処理することになるので、その分として500万円ほど増額した。



歳出

同報無線デジタル化工事に着手
2カ年で整備

問 同報無線整備事業に30年度2億円が計上されている。この事業に関して、昨年までは3年で5億円規模と説明してきたと思うが。

答 総務課長 最初はいろいろなメーカーに確認し、人口規模、面積などから長期計画では5億円程度を見込んでいた。

今年度、プロポーザルにより事業者を決定し、総額で3億5000万円の事業費とした。今年度未までに実施設計が完了し、30年度2億円、31年度1億5000万円の2カ年で整備を行う。

問 金額の大きい工事です。町外の大手企業に発注となるが、町内業者に対する影響、経済効果は。

答 総務課長 町内に今回の事業を実施できる業者がないため、町外の専

門業者への発注となるが、緊急時の故障対応とか工事の下請けなどで協力会社となってくる。

問 路線バス運行事業が約300万円増額になっているがその理由は。

答 企画観光課長 路線バス運行事業として2678万円、前年比292万円を増額した。

これは池代と雲見の最終駅にバスを留め置いたものが30年度からは出来なくなるため、毎朝バスを回送する費用が増えることと、運行収入自体も減っていることから、それを補う補助金としての支出が増加した。

問 買物支援事業をタクシー運行で試験的に行うとのことだが、これまで東海バスを使っていた人がバスを利用しなくなっ

て、路線バスへの補助金が増えてしまうのでは。

答 健康福祉課長 公共交通機関がないなど買物に不便をきたしている方で、年齢が75歳以上とか障害者手帳を持っている方などに対象を限定するので、路線バスとは競合しないと考えている。

問 訪問給食サービスは、事業者がお弁当を作って配達するという大変な仕事だが、事業開始から値段の設定が変わっていない。料金変更の考えは。

答 健康福祉課長 現在は600円のお弁当を町と利用者が半分ずつ負担している。値上げとなると利用者にも負担増をお願いしなければならぬので、関係者と慎重に協議したい。なお、30年度については9700食を見込んでいます。

問 ポケットパーク足湯周辺整備に120万円計上されているが、この足湯は観光客の利用がないように思う。ここに投資しても観光推進の事業にならないと思うが。

答 町長 雨が降ったりするとお客さんが不便だから屋根がほしいとか、当初はもっと大きな金額が要求されていた。足湯が使われている、使われていないにかかわらず住民の要望というのは際限がなくなる。したがって屋根を付けるのは止めて予算を削った。

現状に合わせるのが私の考えで、何でもかんでも町がやるのでなく、近くの皆さんが気付いたら掃除をするなどの態勢になっていただきたい。

問 海水浴場監視業務が毎年少しずつ増額になっている。監視員の人数は満たされているように感じるが、増額の理由は。

答 企画観光課長 監視

業務委託として913万8000円、前年より83万円増えている。

理由としては、お盆の週間についてライフセイバーの配置人員を増やし、より安全の確保に努めるもので、延べ人数を昨年の360人から400人に増やし計画をした。

問 松崎町の子育て支援は遅れていないというが、西伊豆町と比べると通学費、給食費、授業料で格差が出ている。高校生の医療費無償化への対応はどう考えているか。

答 健康福祉課長 子ども医療費助成の高校生までの拡大については、県内では7市町が実施している。

今年の10月から、県が高校生まで助成を拡大する方向なので、当町においても10月からの実施を検討している。

問 出産祝い金について、5万円を10万円に、第三

子以降は20万円に増やすということだが、年度替わりで極端な差が出る。

より均等、平等を考えたとき、金額で助成するのではなく、給食費を助成するとか子育て世代を応援する施策を充実させるべきでは。

答 健康福祉課長 現行の祝い金と30年度以降では格差が出るのはやむを得ない。30年度予算は4月からの施行となるので、4月以降に届け出のあった方は新しい金額が適用になる。



子育て支援の拡充を（松小入学式）

問 重点施策に桜葉振興を掲げているが、当初予算でなく補正で上げるといふ。予算総計主義として予定している収入、費用を計上する原則がある。

重点施策で掲げている以上、何らかの形で予算書に盛り込むべきと思うが。

答 町長 桜葉を推進するには、まず体制を作ることが大事。人・物・金のうち、人・物が、まずありきである。それがないままお金、税金を投入すると大変なことになってしまう。

役場の中に桜葉の専門担当者を作り、そこに地域おこし協力隊員の1・5人をつけて徹底的にやっっていく。お金の方は計画をしっかりとってから付けていきたい。



反対討論

根本的に予算編成の仕方に疑問を感じる。

桜葉振興の補正対応という姿勢、花畑を止めるが先の展望を持つての止め方ではない、道の駅パーク構想は利益を出せる明確なビジョンがないまま進むことに不安を感じる。今回の予算はもう一回練り直して再提案することを希望し反対する。

賛成討論

財政に余裕がない中で予算編成だったと思うが、総合計画（後期）の中に町民との協働が重く入っている。

町民一人ひとりが参画できるよう、今まで以上に情報公開を進めてほしい。そうすればこの予算が3倍にも4倍にもなり、必ず松崎のための予算となることを信じ賛成する。

国民健康保険会計

予算総額は、10億3991万1千円、前年度比2億4180万6千円、18・9%の減となった。保険給付費は、前年比1・3%減の7億6570万8千円となっている。

問 制度改正により静岡県が財政運営の主体となるが、国庫補助金などはどう変わるのか。

答 健康福祉課長 国と町の間には県の会計が入るので、後期高齢者支援金などの事務は県が行うようになる。その分の予算規模も縮小し、町の事務も軽減される。

問 30年度は保険料が下がるといふ説明だが、どれくらい下がるのか。

また、31年度、32年度あたりまでの見込みは。

答 健康福祉課長 今回の税率改正で、医療分と後期高齢者支援金分は約15%、介護納付金分は約

10%の減額となる。

前期高齢者納付金等の精算が2年遅れでくるため、31年度以降はどうなるか分からないが、精算により納付金が増えた場合でも、現在8000万円ある基金を取り崩すなどして、急な保険料増額とならないようにする。

介護保険会計

予算総額は9億2882万円、前年度比4874万1千円、5・5%の増となった。認定者数、サービス受給者数はほぼ横ばいであるが、保険給付費は4000万円以上の増加が見込まれている。

問 平成27年度から保険給付費が急激に増加しているが、要因は何か。

答 健康福祉課長 平成27年度に制度改正があり、定員18名以下の地域密着型通所介護（デイサービス）が可能となった。

該当事業所は町内には2カ所だが、西伊豆町の事業所を新たに4カ所指定したため、ここを利用する方が増加したものの。

水道事業会計

給水収益を前年比99・1%で見込み、事業収益1億5548万円、事業費用1億4941万6千円、税抜きの前年度純利益を356万9千円とした。

主な事業としては、岩地地区、石部地区での送配水管改良工事などを予定している。

問 人口も減少し、年々使用水量も下がっている。もっと少なくなると、料金改定も必要では。

答 生活環境課長 料金改定は平成20年度に23%、26年度に消費税増税分だけ値上げを行った。

今後の料金改定については、将来的な設備更新計画や、給水人口減を

見据えた財政計画を立てていく中で検討していくようになる。



温泉事業会計

供給戸数は、家用31戸、営業用31戸。供給収益を前年比99・5%で見込み、事業収益を6766万円、事業費用を5842万3千円とし、税抜きの前年度純利益を896万6千円とした。

問 温泉収益のうち、まづぎ荘はかなりの部分を占めると思うが、どれくらいか。また、海洋センターはどうか。

答 生活環境課長 まづ

ぎ荘は全体の10%、金額で612万円、海洋センターは5%、373万円。この二つの公共施設で約15%を占めている。

伊豆まづぎ荘会計

宿泊利用者を前年同の2万3500人（宿泊利用率47%）と見込み、7月からの料金改定により事業収益を前年比1460万円増の3億6430万円、事業費用を3億5390万円とし、当年度純利益を982万7千円とした。

問 宿泊料金を864円値上げするが、その影響をどう考えているか。

答 企画観光課長 お客様に値上がりしても何も変わっていないと思われ

ないよう、食事の見直しで準備を進めている。食事以外でも満足感が得られるよう、職員のサービス面でも努力していく。

一般会計

問 補正予算(第7号)は、歳入歳出予算から890万9千7千円を減額し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ36億4443万9千円とした。

答 ふるさと応援寄附金が2000万円減額されているが、その原因は。

答 企画観光課長 1月末現在の寄附が2466万円と、当初目標の500万円には届かない見込みのため、今回2000万円減額した。

返礼品の掘り起しなども行っているが、納税者に魅力あるように写らないのか、なかなか寄附が増えない状況にある。

問 住宅リフォーム助成が減額になっているが、今年の実績は。

答 企画観光課長 この事業は、発注先を町内事業者限定し、事業費の20%、20万円を上限に補

助しているもので、今年度は35件分を予算計上したが、最終的に30件と見込み130万円を減額した。

今現在、事業費ベースで6200万円ほどが町内事業者の売上げとなっている。

問 青年就農給付金が150万円減額となっているが、その理由は。総合戦略では31年までに新規就農者5名を確保したいとなっているが。

答 産業建設課長 新規就農者2名の内、1名が辞めてしまったので、その分を減額した。地域の方々にも協力していたが、コミュニケーションがうまくとれず、馴染めなかったようである。

新規就農者の確保については、農地の集積化による効率的な農業を進めたり、農業委員や地域の方々と協力し、就農者の応援も行っていきたい。

国民健康保険会計

問 補正予算(第2号)は、歳入歳出予算から3436万1千円を減額し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ13億119万4千円とした。

問 高額療養費が保険給付費の主な増額要因となっているが、町として医療費抑制にどのように取り組んでいるか。

答 健康福祉課長 医療費抑制には早期発見、早期治療が必要ことから、人間ドックや特定健診、がん検診に努めている。

しかしながら、受診率向上につながっていないところもあるので、新年度はかかりつけ医から特定健診等の受診を促すような働きかけも考えている。

補正予算(第1号)は、収益的支出において、動

水道事業会計

力費等の支出見込み増により、91万円1千円を増額したため、当年度純利益を28万2千円減の1220万円とした。

資本的支出では、江奈地区石綿管改良工事の事業費確定により179万2千円を減額した。

伊豆まつざき荘会計

問 補正予算(第1号)は、収益的収入及び支出において、宿泊料や食事料などの見込み減により事業収益を1810万円減額。

一方、事業費用においては、施設経営費など1620万円の減額に留まつたため、当年度純利益を160万4千円減の10万6千円とした。

問 収益が1800万円ほど減額となったが、その内容は。

答 企画観光課長 宿泊利用人員を当初の2万3500人から5000人減じたことによる宿泊料の

減と、追加料理の注文減少や酒類消費単価の引下げも影響している。

問 光熱水費が200万円減額となっている。宿泊者が500人減っても入浴利用者が1000人増えているので、入浴に係る水道料が増えるのではないか。

答 企画観光課長 水道料が減ったのは、温泉の温度が熱すぎたため、これまで水道水で冷却していたものを、井戸水で冷却して送る方法に変えたことが減少となった要因である。

入浴客数の増による水道料への影響は少ないと思う。



伊豆まつざき荘

条例例

◎松崎町指定居宅介護支援等の人員及び運営の基準等に関する条例の制定

これまで静岡県が行っていた指定居宅介護支援事業所の指定権限が、本年4月1日より市町村に権限移譲されることから、これに必要な条例を定めるもの。

指定を受けた事業所では、在宅の要介護者が介護サービスを利用するためのケアプランを作成したり、介護サービス提供事業者との連絡、調整などが行われる。

◎松崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

持続可能な医療保険制度を構築するため、これまで市町村が運営してきた国民健康保険を、平成30年度から都道府県が財政運営の主体となり、市町村と共同で運営されることになる。

このため静岡県の運営方針に合わせ、保険税率の見直しを行うもので、所得割・資産割・平等割・均等割の4方式による賦課から、資産割を除いた3方式に変更するもの。また、法定賦課限度額も改正され、総額89万円から93万円に引上げられる。

◎松崎町介護保険条例の一部を改正する条例

3年毎に計画される介護保険事業計画において、平成30～32年度の介護保険料を改正するもの。65歳以上の第1号被保険者の基準額は、月額5200円（8000円の増額）となる。

◎松崎町職員の公益的法人等への派遣等に関する条例の一部を改正する条例

伊豆半島の7市6町で運営（各市町より職員を派遣）している美しい伊豆創造センターは、現在、一般社団法人と任意団体

の2つに分かれており、松崎町からは任意団体に派遣しているが、今後、一般社団法人側へ職員派遣が必要となった場合に備え、関係市町が足並みを揃えて条例を改正するもの。

現行条例では支給できる給料以外の手当の種類が限られているが、管理職手当や通勤手当、時間外勤務手当なども支給できるようにする。

◎松崎町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

平成29年人事院勧告により国家公務員の給料等が改正されたことから、松崎町職員の給料等も同様に改正するもの。給料は月額4000円（1000円の幅で増額され、平成29年4月分に遡って適用される。また、期末勤勉手当についても年間4・3月分であったものが4・4月分に増額される。

◎松崎町営宿泊施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

伊豆まつぎ荘の宿泊料金について、お客様満足度を高め、食事内容を見直し、さらなる経営改善を図るため、1泊2食の料金を税込864円値上げするもので、7月1日より適用される。

この他、次の条例も原案のとおり改正された。

◎国民健康保険保険給付等支払準備基金条例の一部を改正する条例

◎松崎町国民健康保険条例の一部を改正する条例

◎松崎町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例

◎松崎町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例

人事案件

◎教育委員会委員の任命

教育委員の渡邊昌平氏（山口）が平成30年3月17日をもって任期満了となるため、新たに栗原やすえ氏（指川）を教育委員に任命することについて同意しました。

任期は平成30年4月1日から4年間。

議会事務局職員人事異動（4月1日付）

議会事務局書記 落合拓己（産業建設課産業係）
産業建設課 齋藤 究（議会事務局書記）

※（ ）は旧任

第 1 回定例会の賛否状況一覧

件 名	議 員						
	深澤守	伴高志	渡辺文彦	藤井要	福本栄一郎	佐藤作行	稲葉昭宏
松崎町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○
国民健康保険保険給付等支払準備基金条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○
松崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○
松崎町国民健康保険条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○
松崎町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○
松崎町介護保険条例の一部を改正する条例について	○	×	○	○	○	×	○
松崎町職員の公益的法人等への派遣等に関する条例の一部を改正する条例について	○	×	○	○	○	○	○
松崎町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○
松崎町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について	○	×	○	○	○	○	○
松崎町営宿泊施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町一般会計補正予算（第7号）について	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町介護保険特別会計補正予算（第3号）について	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町水道事業会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町温泉事業会計補正予算（第2号）について	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町石部集落排水事業特別会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度松崎町一般会計予算について	○	×	×	○	欠	×	○
可否同数、議長裁決により可決							
平成30年度松崎町国民健康保険特別会計予算について	○	×	○	○	欠	○	欠
平成30年度松崎町後期高齢者医療特別会計予算について	○	○	○	○	欠	○	欠
平成30年度松崎町介護保険特別会計予算について	○	×	○	○	欠	○	欠
平成30年度松崎町水道事業会計予算について	○	○	○	○	欠	○	欠
平成30年度松崎町温泉事業会計予算について	○	○	○	○	欠	○	欠
平成30年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計予算について	○	○	○	○	欠	○	欠
平成30年度松崎町岩地集落排水事業特別会計予算について	○	○	○	○	欠	○	○
平成30年度松崎町石部集落排水事業特別会計予算について	○	○	○	○	欠	○	○
平成30年度松崎町雲見集落排水事業特別会計予算について	○	○	○	○	欠	○	○
教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	欠	○	○

○：賛成 ×：反対 欠：欠席

町政を問う



これからの、山地災害への対策は (吉田池)

問

振興公社の改善に期待

答

抜本的対策に取り組む



藤井 要 議員

問 振興公社の管理する、長八・重文・民芸館・中瀬邸・三聖苑は過去10年間すべて赤字で、累積は2億6千万円を超えている。今年度も赤字だが思い切った対策を講じるべきではないか。

答 (町長)

振興公社内部の人事交流が行われず固定的になっ
てしまい、自分のところの欠点が見過ごされている。また、営業施策を毎年議員から問われても同じことを答弁し繰り返してきた。言ってみれば茶番であり、私はそういうことが嫌いなので、人事異動あるいは営業活動を含めて抜本的に変えていきたい。

問 ドローンの導入を

答 活用状況を見て検討

問 観光PRや災害時の利用、休耕地の管理等にドローンの活用が広がっている。当町も導入し有

効活用を図るべきではないか。

答 (総務課長)

以前、有害鳥獣対策で導入を提案され検討したこともあるが、高額で利用頻度も多くはないため必要な場合は業者委託を考えている。今後、価格も安くなり有効活用が見込まれるようなら導入について検討したい。

問 昨年の九州北部豪雨

では「ため池」の決壊による被害が発生したが、当町にも類似するような危険箇所はあるのか。

答 (町長)

当町におけるため池は、大正5年に築造された吉田池が一つ存在する。平成14年までに耐震補強は完成し、2000年確率の大雨でも対応できるものとなっているが、東日本大震災以降、地震に対する基準の見直しが行われ、県の調査で堤体が目標安全率に達していなかったことから、平成30

年度から県営事業により耐震改修を行っていく。

問 松高存続の取組は

答 賀茂地域全体で協力

問 松崎高校の志願者数が減少し存続が危ぶまれている。通学補助を講じている町もあるが、当町でも空き家を利用した住居の提供や遠隔地からの学生募集などできないか。

答 (教育長)

賀茂地域1市5町で、学校魅力化推進協議会を設立し、高校の在り方を検討している。
松高は地域の拠点なので、専門コースなどを設け外部からの生徒募集も検討すべきと思うが、まずは西豆地域の生徒に松崎高校を選択してもらえよう学校、行政、地域が一層連携を深め、取り組みを進めていきたい。

問 後期基本計画の目標は

答 「町民満足度の高い町」を



渡辺 文彦 議員

問 第5次総合計画前期計画に対し、後期計画で特に重点的に取り組む課題は何か。

答 (町長)

前期計画は抽象的で町民に分かりにくいと思つたので、後期計画では産業振興および医療福祉・防災分野に重点をおいた具体策を示した。

また、後期計画では評価・検証・改善を行うP D C Aを明確にうたい、その結果を公表にするとともに、町政懇談会を

答 (町長) 農業者の高齢化が進む一方で、耕作放棄地が増えている現状を踏まえ、農地の集積による農業の効率化を図ることで、後継者や新規就農者の確保につなげたい。

現在、鮎川地区、船田小山地区にて集積の計画を進めている。

答 (産業建設課長)

町内全体についての農地の利用計画はないが、農業委員会にて「松崎町農業振興ビジョン」を策定し、地域にあつた農地の集積、担い手の確保を検討している。

問 農地集積の目的は

答 農業の効率化を図る

問 後期計画の「農林漁業の振興」の主な取り組みに農地の集積化を掲げているが、その意図するところは。また、どのように進めるのか。その際、町内の農地全体の利用計画を作る必要があると考

えるがいかがなものか。

であり、生産体制の強化が求められる。

新年度、役場内に桜葉振興部門を新設し、効率的な生産活動および担い手の確保を図っていききたい。

問 三聖苑整備の目的は

答 地域の利便性を図る

問 道の駅パーク構想において、三聖苑に農産物の直売所を考えているよ

うだが、現状、町内に2カ所、直売所がある。賑わい創出につながるか。また費用対効果は見込めるか。

答 (町長)

道の駅を充実させたい第一の目的は、観光客に来てもらいたいということではなく、地元の利用性を図ることである。結果的に観光客を呼べる施設になればよいと考えている。

問 桜葉生産体制の強化

答 専門係を新設

問 桜葉の生産体制の強化を図るとあるが、どのような取り組みを考えているのか。

答 (町長)

桜葉は需要に対し供給が追いついていない状況



桜葉、生産強化に向けて (収穫の様子)



ごみ処理場、これからの事業連携は（クリーンピア松崎）



伴 高志 議員

問 ごみ処理場の広域化は

答 6月末までに判断

問 当局は1市2町の広域化に向けて進めてきたが、足並みを揃えることは予想以上に困難なのではないか。

答 (町長) これまで1市2町の枠組みにおいて協議が重ねられてきたが、私は広域化により、いかに経費の削減や住民の利便性が図られるのかなどを慎重に精査する必要があると考えている。

本年3月末までに町の意向を表明することになっているが、6月末まで猶予期間を頂くべく文書で正式に申し入れをしたところである。

答 (町長) 2町での協議が重ねられているところで、こちらの方向性を決めることが先決である。1市2町での広域化計画が見直しとなるような場合においては、様々な可能性について今後検証していかなければならないと考えている。

問 斎場業務の共同化

答 西伊豆と連携密に

問 西伊豆との共同化は

答 1市2町の協議が先

問 問題も多いと思うが

西伊豆町との共同化を前向きに検討することはできないか。

答 (町長)

広域化については1市

現在、松崎町は西伊豆町に業務委託しているが、遠からず建替えになる。2町共同の方向を検討すべきと思うが。

答 (町長)

西伊豆町との斎場業務については、現在、施設が西伊豆町内に存在することから、当町からは火葬業務を西伊豆町に委託し負担金を支出している。西伊豆町との新しい斎場の建設については、昨年6月からの担当者間で打合せや他施設の視察

を行っている。

建設にあたっては、当町にも負担は生じると考えるが、西伊豆町と連携を密にし、協議を重ねていく。

問 斎場の運営方法は

答 今後の課題である

問 既に松崎と西伊豆で西豆衛生プラントの共同化を行っている。この一部事務組合に業務を編入する方法もあるのでは。

答 (町長)

当町と西伊豆町とでは斎場の所管も異なること、また斎場と衛生プラントそれぞれ性質の異なる会計を明確に管理するには、既存のプラント会計に斎場会計を編入するのではなく別々に管理した方が良いと考える。しかし、その方向性については今後の課題であり、今のところは白紙の状態である。

次の定例会は、6月5日(火)からの予定です。

議会のらごき

1月

- 22日 静岡県地方議会議長連絡協議会
政策研修会（静岡市）
- 25日 広報編集委員会
- 26日 賀茂郡町議会議長会臨時総会・
議長会議（南伊豆町）

2月

- 1日 広報編集委員会
- 8日 議会だより118号発行
- 13日 議会全員協議会
- 20日 下田地区消防組合議会定例会
下田メディカルセンター議会定例会
- 23日 議会全員協議会
- 28日 議会運営委員会・広報編集委員会

3月

- 2日 議員会勉強会
- 6日～13日 第1回定例会
- 26日 西豆衛生プラント組合議会定例会

表紙の写真「那賀川沿いの桜（鮎川）」は文化協会写真部より提供。

発行責任者

議長 土屋清武

編集委員長

藤井 要

編集委員

深澤 守 伴 高志
渡辺 文彦 福本栄一郎
佐藤 作行 稲葉昭宏

この人に 聞きました⑯ 児童館 利用者



町内で活動している皆さんを紹介するコーナーです。今回は、児童館を利用しているお母さん方にお話を伺いました。

松崎町に対して、子どもたちを育てるのに要望はありますか。

0歳児よりも中学・高校・大学のその後にお金がかかってくるので、そちらに補助など支援があれば、もっと子どもを産もうと思う人が増えると思います。

休祝日にお金を払ってでも、子どもを預ける場所ができれば、安心して仕事ができる。

一時預かりを午前午後で分けるのではなく、朝から夕方まで1日預かって欲しい。

教育を受けられる場所が少ない。塾などを町で経営しているところもある。大きくなってからの教育・習い事が限定されていることを心配している方が多い。そういうことができるように

いかないと、どんどん外に出て行くしかない。

松崎町に住んで良かったなと思うことはありませんか。

子どもが暴れてどうしようもないときに、誰かしらが助けてくれるので、町の人の心が温かいと思う。

海も山も遊ぶところがたくさんあって子どもは育てやすい場所だと思う。（聞き手 編集委員長）

海鳴り

今定例会は、新町長による平成30年度の行政施策を決定するものであり、また我々も、職責が問われる議会であった。

施政方針では、住民満足度の高い町づくりを目指すため、3つの重点施策を掲げ諸事業を実施していくとのことである。

しかしながら、事業によつては、実施基準を現在検討中であるものや、施政方針で第一に述べた桜葉産業の振興については、関係費用を当初予算に計上できず、次回補正予算に計上する予定であるなど、深い審議が可能な部分もあった。

当初予算は、住民に対する1年間の行政サービスの計画書である。十分な準備のうえ、提出する際には万全を期していただきたいものである。

（議長）